

にしお駅伝フェスティバル2018

冬のこどもの国で健脚を競う

12月16日、愛知こどもの国でにしお駅伝フェスティバル2018が行われました。会場を愛知こどもの国に移して7年目となる今回は、高校生一般や小学生、フレンドリーなど全7部門に過去最高の238チームが市内外から参加しました。好天に恵まれ、選手たちはそれぞれ5つの区間で、起伏に富んだ周回コースに果敢に挑戦。沿道からの大きな声援を背に受けながら健脚を競い合い、アンカーまで懸命にたすきをつないでいました。



てんてこ祭

五穀豊穡を祈念する天下の奇祭

1月3日、てんてこ祭が熱池八幡社（熱池町）で行われました。県の無形民俗文化財に指定されているこの祭りは、天皇が即位して初めて実った米を神々に供える「大嘗祭」に由来するといわれ、現在は豊年祭として毎年行われています。赤装束に身を包んだ厄男が「てんてこ、てん」という太鼓の音に合わせて大根を付けた腰を振り、境内まで練り歩きました。境内では、かぶると厄除けになると伝えられる「わら灰」を厄男が観衆に向かってまいていました。



寺津小学校で花育教室

地元の特産カーネーションをアレンジ



愛知県が花きの生産量全国1位であることを知り、花への関心を高めてもらおうと、1月8日に寺津小学校で花育教室が行われました。参加した6年生の児童は、色とりどりの地元産カーネーションでフラワーアレンジメントを体験。講師を務める一色生活改善実行グループ連絡協議会のメンバーから、コツを教わってもらいながら、丁寧に作業を進めていました。初めて体験する子も楽しそうに花を生けていき、個性豊かな作品を完成させていました。

産廃建設阻止！西尾市民会議

つボイノリオさんが特別顧問に就任



「産廃建設阻止！西尾市民会議」は12月19日、つボイノリオさんを特別顧問に迎える就任式を、一色地域交流センターで行いました。同会議は一色町生田地区に放置されている産業廃棄物最終処分場（産廃処分場）跡地を囲む区域で民間事業者が計画している新たな産廃処分場に対し、建設阻止と跡地問題解決を促す団体。毎年5月の三河一色みなとまつりでうなぎ大使も務めるつボイさんは「三河湾は宝の海。少しでも力になりたい」と力強く語っていました。



一色東部保育園年長児が門松作りに挑戦 伝統行事を通じた地域のふれあい

一色町の松木島八幡社で12月27日、門松づくりが行われ、一色東部保育園年長児が参加しました。地域の伝統行事を園児に体験させたいという園の思いを受け、同八幡社の宮総代の提案で実現した初めての取り組み。4グループに分かれた園児は、宮総代などの指導の下、協力しながらハボタンや松、ナンテンなどを植え、大きな門松を完成させました。宮総代長の三浦雅美さんは「自分たちが作った門松について家族で話題にしてくれたらうれしい」と笑顔で話してくれました。



横須賀小学校 デンソーサイエンススクール 実験で楽しく科学を学ぶ



12月18日に横須賀小学校で、5年生が参加するデンソーサイエンススクールが行われました。株式会社デンソーから派遣された講師が「モーターが使われている電化製品にはどんなものがあるか」など科学について質問すると、児童たちは積極的に手を挙げ、意見を発表していました。その後、電磁石とモーターについての説明を聞き、エナメル線と電池を使って電磁石を作成。エナメル線を巻き付けた釘にクリップがくっつく様子を笑顔で眺めていました。

吉良高校生と市長とのまちづくりトーク まちづくりに若者の視点を

12月19日、吉良高校の生徒と市長によるまちづくりトークが市役所で行われました。将来を担う若い世代の声に耳を傾け、市政運営に取り入れようといわれた取り組みで、昨年7月には西尾東高校でも開催。今回参加した吉良高校の1～2年生9人は、昨年度実施した防災の取り組みを報告した後、公共交通サービスの改善や姉妹都市のニュージーランド・ポリリリア市とのさらなる交流促進など、行政に期待することを市長に伝えました。



名探偵！ 山田コタロウナゾトキシアター みんなが名探偵！



12月15日、文化会館で「名探偵！ 山田コタロウナゾトキシアター」が行われました。ホールの中に閉じ込められた参加者がコタロウたちと力を合わせて謎を解き、迷い猫を探すというストーリー。参加者は友だちや家族と相談しながら一つ一つ解き進めました。なかなか解けない問題は出演者にヒントをもらうなど、全員が積極的に謎解きに挑戦。最後に全問正解した参加者が登壇すると会場から大きな拍手が送られていました。終演後には、「あの問題分かってすごかったね」と楽しそうに感想を話す姿も見られました。